

研修センター便り

発行 後志教育研修センター NO3 平成25年8月29日 Tel 0136-22-1337 F A X 0136-22-2681

改めて「言語活動の充実を」

夏季休業が明けました。子どもたちは夢を探して学校や地域で精一杯活動しているかと思えます。そんな中、夢を叶えた人がいます。日米通算4000本安打のイチロー選手です。「4000本を打つために8000本もの失敗や悔しい思いをした。」と語ったことが強く印象に残りました。言語の構成要素のひとつである「数」を用いて会見に望んだこと、論理を転換し8000の数を基に4000の大変さを伝えたことなど、彼の言語活動に裏打ちされた表現力の豊かさを強く感じました。また、宮澤賢治も「やまなし」という作品で、論理を転換し描写を強調しています。水底に住む蟹の兄弟が水上の風景や鳥の様子を見たり感じたりする内容です。水底を基軸に水上の様子を伝えることで、普段は感じない水上の風景のきらめきや鳥への恐怖心など、想像力をかき立てる作品にしています。

さて、これからの社会を生きる子どもたちは、複雑に絡み合う「解」のない課題に間違いなく直面します。その時、それらの課題に出合った人たちは、ほぼ全員が納得できる「解らしきものの際（きわ）」を着地点とみなします。そして、そこを求めて合意形成のための思考を練り合います。また、それが叶わないとみれば、論理を転換し、「解」のある近似の課題づくりへと判断の舵を切ります。いずれにしても、そのような場においては、論理や思考などの知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言語活動が活発に行われます。このようにこれからの時代を生きる子どもたちには、思考力・判断力・表現力などの能力の醸成が必須で、全教科を通して言語活動を充実させる必要があります。中学校音楽科を例にとると、学習指導要領の「B 鑑賞」第1学年に、「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」と記述されています。全教科における言語活動の充実を一層願っております。

終了の講座講師名です。お世話になりました。

☆図工・美術科（佐藤初実・赤松瑞枝講師）（※**授**授業者）（※**外**外部講師）

☆校内研修（鹿毛貴之・原田益明・齊藤良樹講師・**授**金子康幸）

- ☆学校保健 (佐藤ひろみ・谷岡三千子講師・**外**藤原ちえこ)
- ☆学校経営 1 (巻礼子・沼田守講師・岸小夜子義務教育指導監)
- ☆学校経営 2 (冨成博人・丸岡哲也講師・青木順一指導班主査)
- ☆学級経営 2 (佐藤誠二・藪田晃一講師・**外**八幡睦美・阿部千春)
- ☆食育 (田中彩香・福井隆子講師・藤谷宏一指導主事 (**授** 田中彩香))
- ☆小学校外国語 2 日目 (高橋健吾・赤松恵講師・板谷文美子指導主事)
- ☆情報機器 (齊藤良樹講師・**外**山口有士 (旭川市立春光小))
- ☆生活科・総合的な学習の時間 (高木弘道・瀬戸川典子講師・田口範人指導主事)
- ☆書写実技 (井上公明・秋元 雪・北澤実和子講師)
- ☆保健体育科 (小寺友興・石川周亨・岡崎利美講師・**外**中村ひとみ)
- ☆算数・数学科 1 日目 (秋田 匡・**授**坂下賛匠講師・藤谷宏一指導主事)



後志教育講演会への参加、お疲れ様でした

「子どもの表現力を伸ばすためには」と題し、東洋大学 斎藤里美教授の講演に、およそ200名の参加者を迎えました。後志教育局 菅原行彦局長より成果を期待する旨のご祝辞を賜り講演の開始です。講演で先生は、いじめ、ネット依存などの急増に触れ、「他者とどうつながるか」が現代人の大きなテーマであるとし、表現力の重要性を指摘されました。表現力が目指すものとして、①傾聴②共感③表現の三点を挙げられ、②の共感は純粋性を伴うもので同調とは違うこと。さらには、③の表現では「相手への贈り物という気持ち」が大切と強調され、次に、「傾聴と共感」の実技を体験しました。

最後に表現力を伸ばす条件として、「学級経営を通して受け止めてくれる聴き手を育成すること」「人間の多様性を認めること」「誘い水という言葉をかけること」が極めて重要であることを説かれ、講演が無事終了致しました。

※上靴の忘れ物があります。「TIGORA PLAYERS」です。

